平成２９年度　東筑摩塩尻PTA連合会研修会　第２分科会議事録

文責　　宮原　ゆかり

日時：８月２６日（土）　15:25～16:40
場所　塩尻市立洗馬小学校　教室

☆【学校・地域との連携活動】
テーマ「地域からせいとへそして児童へとつなぐ心のリレー」

☆助言者　麻績小学校長　福田　弘彦
☆司会者　郡Ｐ常任委員　小池　美樹
☆提案者　塩尻中学校ＰＴＡ会長　宮田　伸子
☆記録者　郡Ｐ常任委員　宮原　ゆかり
　　塩尻中学校　　塩原　俊郎
　　塩尻中学校　　春日　秀仁
☆参加者　各校正副会長・保護者　２９名

１.助言者・司会者・記録者の紹介（15：25）

２.本日の流れ説明

３.提案者発表（15：35）
塩尻中学校 PTA 会長　宮田伸子さんより、塩尻中学校における「地域ふれあい学習」についてのレポート発表があった

４.グループ討議（15：40～16：05）
３グループに分かれ、討議の柱である『PTA として活動する中でどのような工夫をすると「人とのつながり」を作ることができるか』について話した。

５.グループ討議発表（16：10）
１グループ（司会：福田　弘彦校長先生　　発表：松澤　務）
学校行事で生徒と親、地域で活動している事などを話した。
・毎年１２月にしめ縄づくりがあり、地域のお年寄りと連携し一緒に作っている。
・小中一緒の学校なので、小学校は地域の方と米作り、中学校では地域の清掃などを行っている。
・聖南中では、３年生が秋に南三陸町に行き、地域の生徒と一緒に交流している。
地域の方と、子ども達が、子どもからお年寄りまで一緒に行動することが大切だと感じる。

２グループ（司会：宮田　伸子　　発表：横山　正幸）

学校・地域ボランティアとの交流・講座がうまく進んでいる。

課題―ボランティアの方との連絡の取り方・調整

　　ボランティアの同じ方への負担

今後必要なこと―参加のお願いの仕方

　　参加しやすくする

３グループ（司会：小池　美紀　　発表：中野　潤）

・コミュニティースクールは定着しつつあり進んでいるが、小中学校で差があるのを感じる。

・学校・公民館・地区の行事に絡めて、手伝っていただいたり、参加している。

・コミュニティーの一環として、歯科大や信大生から勉教を教えてもらうなど、協力してもらっている学校もある。

課題―小学生が参加しやすい行事は増えているが、中学生と地元のみなさんが関わるきっかけづくりや行事が難しい。今後の課題として、中学生をどう関わらせていくか？

６.助言者のご指導　　麻績小学校長　福田　弘彦先生（16：25～16：40）

塩尻中学校の発表より

　総合的な学習の時間に位置付けた地域ふれあい学習において、地域の専門性豊かな方々を講師に招いた１８講座を開設し、生徒に体験活動の機会を設けている。総合的な学習の時間をここに充てているが、そもそも中学校において進路指導やキャリア教育にこの時間枠を活用して進めなければならない内容が多く、体験活動を通して生きる力を育む学習は学校・保護者・地域のみなさんが「地域にふれる」「地域を感じる」「地域に学ぶ」活動を、子どもたちの成長にとって大事であると考えているからこそ、そういった思い切った教育課程を編成しているのだと見受けられる。子どもたちが自己を取り巻く自然や社会に働きかける活動に、大きな価値があると考えているからこそではないか?まずはこういった学習が子どもたちの成長にとても重要な役割を果たすと確信して、地域ぐるみで学校教育に位置付けている塩尻中学関係者のみなさんの意識の高さ、子どもにとって大切なものを取り入れよう、取り込もうという意欲を強く感じることができる。

　また、１８講座の内容だが、非常に豊富で魅力的で、生徒も迷うほどである。地域の特色・伝統・個人の知恵を体感できる、学ぶことができる講座や、生涯にわたって趣味やライフワークにつながる、まさに生涯学習への導入ともいえる講座など、生徒にとってどれも学んでみたい、身につけたい内容である。

　この講座は年間７回２枠の開催という事で、ここに繰り返し取り組むことのできる良さ、繰り返し関わることのできる良さがある。もちろん楽しいという喜びや知識や技能が身に付く喜びもとても大きいが、それがやがて講師の方（地域の方）と中学生との関わりの深まりとなっている。これが１回のみあるいは数回で幕を閉じる活動との大きな違い。講師の方々のお人柄・個性や人間性に触れることに意味や価値が大きくて、その方々とのつながりを通して地域がより身近になる。講師の方々にも中学生一人ひとりの顔がみえる、つまりそのこの個性や人柄に

応じて関わることのできる講座となっていることが、生徒・講師相互から寄せられた感想から感じることができる。人とつながる学習になっている。その中で地域の良さや自分を取り巻く人々の温かさを感じ、ふるさとへの思いを深める事になっている。おそらく各講座で生徒たちが温かく認められたり、できるようになる喜びを感じたりしていく中で、受け身の学習では得られない、今こそ子どもたちに身につけてほしい自己肯定感・自己有用感が高まる活動になっている。

人とのつながりを深めるには

①子どもが自分を取り巻く人・物・事に、自ら求めて関わることのできる場を保証できるか?

②活動を通して子どもの育ちをどのように認めることができるか?

③その良さを子どもたちにどれだけ伝えられるか?

その子どもの良さや育ちをとらえて伝えてあげることができれば、その無意識だったことが意識され、その子にとっての成就感や達成感、自身や自己肯定感の高まりとなる。

7.アンケート記入

8.閉会式　＊放送にて（16：40～16：50）